

第33回日本環境会議沖縄大会
第6分科会 青年と環境

日時：2016年10月21日（金）午前9時～午後4時10分、
10月23日（日）午前9時～午後0時10分
会場：沖縄国際大学3号館202教室

第6分科会のねらい

本分科会では、諸問題に精通している先輩方の知識や経験もお借りしつつ、若い世代が、沖縄や東アジアの地域が抱える環境、平和、人権等の問題を共有し、協働の可能性を探る。

人権を蹂躪して進められている軍事施設建設の免罪符として説明される「国家安全保障」に代わる、若者が求める未来の安全保障の形、アジア共同体の可能性についても議論したい。

第6分科会 青年と環境 第1部

若者×環境×平和×経済×自己決定権×人権（現状編）：
若者が求める安全保障とは？

日時：2016年10月21日（金）午前9時～午後0時10分／会場：3号館202教室

第6分科会 青年と環境 第2部

若者×環境×平和×経済×自己決定権×人権（創造的取組編）：
若者の実践

日時：2016年10月21日（金）午後1時～午後4時10分／会場：3号館202教室

第6分科会 青年と環境 交流会

日時：2016年10月21日（金）午後4時20分～午後5時50分／会場：7号館201教室
佐喜眞 淳 パフォーマンス 他

第6分科会 青年と環境 第3部

東アジア×若者×未来（展開編）：
「辺境」が繋がる・「国境」を乗り越えて
～風水文化圏の環境リーダーと若者の対話～

日時：2016年10月23日 午前9時～午後0時10分／会場：3号館202教室

第6分科会 青年と環境 第1部

若者×環境×平和×経済×自己決定権×人権（現状編）：

若者が求める安全保障とは？

日時：2016年10月21日（金）午前9時～午後0時10分／会場：3号館202教室

コーディネーター：具志堅秀明（沖縄国際大学学生）・比屋根良直（大学職員）

司会：大城尚子（沖縄国際大学非常勤講師。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程）・

具志堅秀明（沖縄国際大学学生）・

第6分科会第1部のねらい

沖縄で生活する人々の安全で自由に暮らす権利は、国際法上不正な1879年の「琉球処分」以降、日本政府によって、沖縄戦以降は米国政府も加わる形で、現在に至るまで無視され続けている。

平和で静かに暮らしたいという地域住民の願いや度重なる選挙で示されてきた沖縄の人々の民意を無視して、今、「国家安全保障」の名の下に日本政府は、辺野古や高江において暴力的に市民を排除し、新たな軍事施設の建設工事を強行している。

「国家安全保障」や日米安保のために必要であると日米両政府が主張する沖縄の米軍基地は、凶悪犯罪や重大事故の温床になっている側面もある。軍事基地があれば外敵から領土、生命、財産などを守ることができ、日常的には経済効果も期待できるという一般的な言説が存在するように思われるが、本当にそうだろうか。

第6分科会第1部では、初めに、辺野古、高江、自衛隊配備の進む琉球列島の島々から若者や住民の報告、そして、違憲である安保法制に抗議し、沖縄の基地問題を訴える東京の「路上」から学生の報告、さらに米軍基地による女性の人権侵害、若者の貧困の現状について「現場」から専門家の報告を共有する。それらの報告を踏まえ、「若者が求める安全保障」について議論を深めながら、その形を探っていききたい。

また、後半では、沖縄の抱える問題を解決する手段としての「自己決定権」の行使や、日米安全保障体制に代わる、アジアにおける多国間の安全保障体制の構築についても専門家からの報告を交え、その可能性を探っていききたい。

・報告1：「現地の若者から見た辺野古問題」 渡具知武龍（琉球大学学生）（10分）

・報告2：ビデオメッセージ～高江から～（10分）

・報告3：「東京から沖縄をみて～路上に立ち、交わること～」

元山仁士郎（国際基督教大学学生・SEALDs RYUKYU メンバー）（15分）

・報告4：「琉球列島の自衛隊配備問題」 猪股哲（南西諸島ピースネット共同代表）（15分）

・報告5：「在沖米軍基地と女性の人権」

高里鈴代（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表）（15分）

・報告6：「若者の貧困について」 田嶋正雄（沖縄タイムス社会部記者）（20分）

10:30～10:40 休憩（10分）

・報告7：「沖縄の自己決定権と地域からなる東アジアスコットランド EU から学ぶ」

島袋純（琉球大学教育学部教授）（20分）

・報告8：「沖縄と東アジア共同体」 前泊博盛（沖縄国際大学経済学部教授）（20分）

・コメント1：「米国ウチナーンチュから見た辺野古基地問題」

キム・デイビッド（ホメオパシー医・米国ミネソタ州沖縄県人会ウチナーンチ）（通訳込み10分）

・コメント2：「EU加盟によってリトアニアが得たもの」

クピチュナス マンタス（オスロ大学大学院近代日本学修士課程学生）（5分）

・コメント3：「若者の貧困と地方自治体」 新垣瑛士（自治体職員）（5分）

・コメント4：「若者が求める安全保障とは一人権、経済、環境の視点から」

小波津義嵩（名桜大学学生・SEALDs Ryukyu メンバー）（5分）

質疑応答・討論（25分）

第6分科会 青年と環境 第2部
若者×環境×平和×経済×自己決定権×人権（創造的取組編）：
若者の実践

日時：2016年10月21日（金）午後1時～午後4時10分 会場；3号館202教室

コーディネーター：具志堅秀明、比屋根良直、成定洋子（沖縄大学教授）

司会：比屋根良直、石橋由希子（沖縄大学学生）

第6分科会第2部のねらい

平和運動の高齢化、「平和運動に、若者の姿が見えない。」と若者の意識を問う声がよく聞かれます。しかし、若者は平和運動や環境保全活動に関心なのでしょうか。

昨年、「安保法案」に反対の声を挙げた SEALDs（シールズ）は、これまでの平和運動とは異なる新しいスタイルで、自由で民主的な日本を守るために若者たちが思考し、行動しました。

沖縄でも若者の平和運動は、韓国の済州島・台湾などの島々と国際的な連帯で繋がる「平和の海キャンプ」、辺野古新基地建設の埋め立て予定地である大浦湾沿いにあえて作った、自らの暮らし、経済、社会のあり方を塗り替えることで社会変革をもたらそうとする実験村「ワカゲノイタリ村」など、奇想天外で静かな平和運動が若者たちによって始められています。第6分科会第2部「若者の実践」では、前半はこの2つの取組みについて報告頂きます。そして、後半には、下記のテーマで専門家やユースから環境研究・活動について報告頂きます。

辺野古新基地建設問題を巡る国と沖縄県の対立を目のあたりにする時、「海は誰のもの？」という問いに直面します。多くの沖縄県民は、地先の海は「自分たちのもの」と答えるのではないのでしょうか。イノー（礁湖）は、海の畑と呼ばれるほどに、地域共同体が自らの自然資源として認識し、利用してきた歴史があります。

琉球列島の様々な開発・自然破壊の現場で地域住民が示した抵抗の根っこにある、自然と住民の深く強い「つながり」。このつながりが、かつての風水文化圏の交流に遡る、琉球列島の歴史的な構築物であることを再確認し、琉球王朝時代を起点とする琉球列島における伝統的な資源管理の現代的意義を、共同体の共有地（コモンズ）研究の立場から発表して頂きます。続いて、衣食住や観光資源として利用しながら、守っていく自然資源の事例をユースから発表頂きます。

更に、3・11の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故以降、近隣諸国・地域のエネルギー政策にも影響を与えてきた脱原発や地球温暖化対策として注目される再生可能エネルギーの事例として、沖縄におけるバイオマスエネルギーの可能性を発表頂きます。

それらを踏まえて、地域資源管理、エネルギーなど、地域での取り組みの深化と、東アジアにおける環境交流の可能性についても議論していきたいです。

・報告1：「平和の海キャンプの活動について」

ポドゥリップスカ・カタジナ（琉球大学学生）（15分）

・報告2：「オルタナティブな社会・発展を目指す、名護市の実験村“ワカゲノイタリ村”」

具志堅秀明（ワカゲノイタリ村発起人・沖縄国際大学学生）（15分）

・報告3：「蔡温・抱護の思想とコモンズ」（30分）

三輪大介（NPO法人いけま福祉支援センター）

・報告4：「照間ビーグの若者への認知度向上の取組み」

兼久博矢杜（沖縄国際大学 Beegooo メンバー）（15分）

・報告5：「自然環境の価値を高めるためには？～利用することで守る自然資源～」

仲栄真礁（一般社団法人キュリオス沖縄理事）（15分）

14:30～14:40 休憩（10分）

・報告6：「さとうきびバイオ燃料による経済効果の産業連関分析」

新地毅一郎（沖縄市教育委員会職員）（15分）

質疑応答・討論（75分）

第6分科会 青年と環境 第3部

東アジア×若者×未来（展開編）：
「辺境」が繋がる・「国境」を乗り越えて
～風水文化圏の環境リーダーと若者の対話～

日時：2016年10月23日 午前9時～午後0時10分／会場：3号館202教室

コーディネーター：小波津義嵩・砂川かおり（沖縄国際大学講師）
司会：比屋根良直、河才苑（ハ・ジェウオン／留学生）

第6分科会第3部のねらい

花崗岩類の分布、季節風、自然と調和して暮らすことが長生きや幸福に繋がると考えられてきた東洋の思想を基に、歴史的には、中国の華南地方から香港、台湾、沖縄、朝鮮においては、風水文化圏が発展してきた。後に、琉球王府の三司官となった蔡温は、中国の福建省で風水を学び、これを基に沖縄の原風景や自然資源管理の仕組みを構築した。第6分科会第3部では、「国民国家」が資源を巡って対立を煽り、軍事的緊張を高める中、風水文化圏に位置する国や地域の環境リーダーと沖縄のユース等が、「国境」や対立を越えて対話し、持続可能で平和・友好的な、東シナ海を含む風水文化圏の再構築と協働の可能性を模索する。特に、「国家安全保障」の下で脅かされ蹂躪される人権、エネルギー、環境教育、環境交流等をテーマに、それぞれの国や地域の先進的な取り組みや課題を共有しつつ、共に解決策を考えていく。

- ・報告1：「自然共生型社会を目指す」東アジア地球市民村の取り組み
朱 惠雯（ツアー・フィウァン／日中市民社会ネットワーク事務局長）
- ・報告2：「中国におけるマングローブ林保護活動について」
劉 毅（リュウ・イー／紅樹林保育聯盟理事長兼事務局長（中国福建省アモイ市））
- ・報告3：「台湾の反核運動と青年の参加について」
崔慄欣（チェ・スーシン／緑色公民行動聯盟事務局長（台湾））
- ・報告4：「在韓米軍基地の環境問題/
ソウル市の市民参加型再生エネルギー自立都市に向けての取り組み」
申 洙沆（シン・スヨン／グリーン코리아・平和生態チームのチーム長（韓国））

10:45～10:55 休憩 10分

- ・コメント1：「表現の自由への侵害を『国連人権法』で問う」阿部藹（沖縄国際人権法研究会）
 - ・コメント2：「東アジアにおけるユースの環境活動」
阿部治（日本環境会議理事・立教大学教授）
 - ・コメント3：「韓国の若者ができること」河才苑
 - ・コメント3：「沖縄の若者にできること」具志堅秀明
- 質疑応答・討論：50分